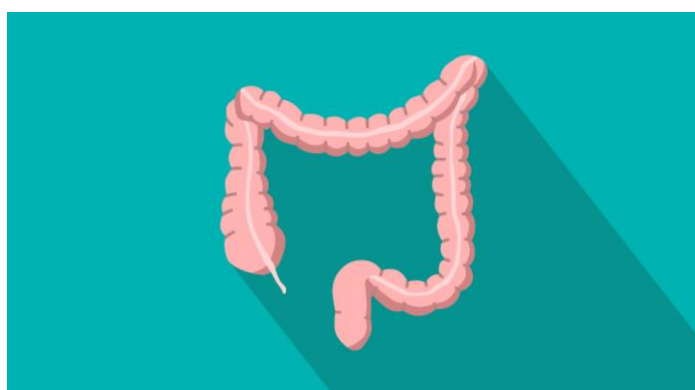


大腸内視鏡検査による大腸がん 位置特定の精度

待期的大腸癌切除術を施行した患者 203 例について、術前大腸内視鏡検査による病変位置特定の精度を検討した結果が「Surgical Endoscopy」誌に報告されました。



その結果、腫瘍の位置特定が不正確で、手術計画が変更されたのは 16.7% (34 例) でありました。

横行結腸または遠位側に病変のある患者は、近位側に病変のある患者よりも、最終的な外科治療が変更となる可能性が高く（29.7% vs. 3.9%、 $P < 0.001$ ）、正確な病変の位置を確認するために、術中に追加の大腸鏡検査を要したのは11例（5.5%）でありました。



当クリニックでは、大学病院と連携し、病変部位の正確な位置特定のため検査も、必要に応じて行っております。